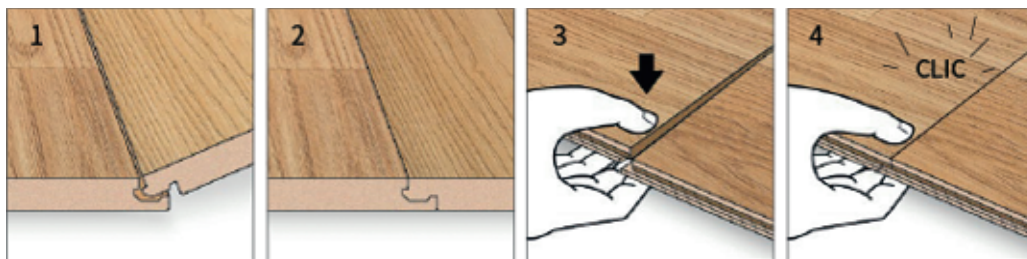


施工マニュアル

クロノテックス ラミネートフロア

『接着施工』 vol.3



施主様、設計士様、営業担当者様へ	1
「施工ミスの要因」	2
「接着施工」のメリット・デメリット	2
「接着施工」の詳細説明	3
Clic2ClicとExpress Clicの説明	裏表紙

はじめに

この度は、クロノテックスラミネートフロアをご検討いただき厚く御礼申し上げます。

フローリングなどの床仕上げ材は住宅用であってもスリ傷やキャスター傷に強い品質が求められております。

日本ではフロア材を普通歩行用（住宅用）と重歩行用（非住宅用）に区別して使用されています。このため日本の住宅用フロア材は「傷に強い商品」でも世界レベルの耐摩耗性はありません。

ラミネートフロアには床仕上げ材として多くの必要な機能と高い性能があり、既にドイツ、イギリス、フランス、アメリカ合衆国などの欧米では住宅や非住宅の30%以上に使用されています。

ドイツ クロノテックスはラミネートフロアの最大手企業で世界85カ国に輸出しています。

クロノテックスラミネートフロアの品質は欧州規格EN13329で担保され、傷や凹みそして薬品などにも強い商品です。

クロノテックスラミネートフロアの全ての商品は住宅でも非住宅でも安心してご使用いただけます。

弊社は、クロノテックスラミネートフロアの施工方法を「施工マニュアル」『置敷施工』と『接着施工』で説明しています。本紙では、クロノテックス商品をご検討中の施主様、設計士様ならびに営業担当様にクロノテックスラミネートフロアの正しい施工方法をご説明する目的で記載しております。

ラミネートフロアには施工上の特長として、フロア材を床下地材に固定しない置敷施工が可能です。接着剤を使用しない置敷施工は制限がある施工方法で、置敷施工ができない物件もあります。置敷施工ができない物件では、施工自由度が高い接着施工も御検討ください。接着施工は施工自由度が高く、従来の木質系フロアと同じ施工となりますので、殆どの物件で施工可能です。

「置敷施工」と「接着施工」のメリットとデメリットをご理解いただき、2種類の施工方法から用途や目的に合った施工方法をお選びください。

■ 施工ミスについて

■ 施工上の注意をお守りください

ラミネートフロアは接着剤や釘を使用しない置敷施工ができますが、置敷施工には置敷施工のルールがあり、施工ルールを無視すれば「施工ミス」となり床が突き上がります。

- 置敷施工は、接着剤や釘などでフロア材を床下地材に固定してはいけない施工。
- 置敷施工は、壁や上がり框そして敷居などでもフロア材と適度な隙間が必要な施工。
(これらのルールを無視しますと置敷施工ではフロア材が突き上がる場合があります)

接着施工では、施工慣れした複合フローリング施工と同等な施工のため、ミスの事例が少ないです。

■ 『接着施工』のメリット・デメリット

■ 接着施工※下地は合板などの木質系のみ可能です

【接着施工の概要説明】

- ①床下地材とラミネートフロアを接着剤で固定する床施工。
(ステープルやフィニッシュ釘の併用)
- ②複合フローリングの施工と同等の施工。
- ③モルタルなどへの直貼りは不可です。置敷施工としてください。
- ④全体を均一に接着する為に、十分な塗布面積を確保してください。塗布量につきましては、接着剤説明書記載内容に従ってください。

【メリット】

- ①複合フローリング施工と同等なため床施工業者の施工経験が活かせる。
- ②上がり框とフロア材、敷居とフロア材の納まりは複合フローリング施工と同等。
- ③連続施工面積の上限が大幅に拡大する。
- ④サネ形状は本実でなく最新のクリック仕様です。
その為接着施工であっても、施工時間は複合フローリングの施工時間より早い。
- ⑤逆張り施工や、床勝ち施工(床先行施工)が可能。
- ⑥幅木や見切材の納まりの制限が少ない。



【デメリット】

- ①フロア材を損傷せずに剥がすことができない。

■ 接着施工

■ 接着施工の注意事項 (重要な施工ルールです)

- 床下地材の確認
 - 不陸は1メートル当り3mm以下に補修する。
 - 合板捨て貼り、二重床(合板捨て貼り)、既存フローリングなどが可能です。
 - 床鳴りがする場合は補修する。
- 下地は9mm以上の合板下地で、根太等下地へしっかりと固定されている事が条件となります。
- 全てのラミネートフロアを床下地材に接着剤または接着剤と釘で固定する
 - 防湿シートやクッションシートは接着施工では使用できない。
 - ツーバイフォー住宅で床に撥水材が塗布してある場合は接着剤の効果があるか接着剤メーカーまたは撥水材メーカーにご確認ください。
- 施工前には必ず製品の状態(表面・精度等)をご確認ください。
 - 不備がある場合はご使用せずご連絡ください。
- 床暖房に直接の接着工法は、対応不可な場合があります。お問い合わせください。
(置敷施工がおススメです)
- 使用する接着剤に「施工方法」等の記載がある場合は、その記載内容に従ってください。

■ エクスプレス クリックの接着施工の説明

複合フローリングの捨貼工法と同じ施工方法です

複合フローリング施工経験者様へは特段の説明は不要ですが、下記が注意点となります。

- (a) 接着剤は硬化後に弾力性のある「1液ウレタン」などの接着剤を使用してください。
- (b) ラミネートフロアの下端のサネはフロア釘を打つことができます。
- (c) サネは本実では無く、加工精度の高い最新式クリックを採用していますのでジョイント作業ではハンマーは不要です。(使用禁止) ゴムハンマーであれば可能です。
- (d) 精度の高いクリックのため、サネ(下端のクリック)にゴミやオガ屑が入るとジョイントしづらい場合があります。
- (e) フロア材はカットした残材を含め常に水平な状態で保管してください。
- (f) ラミネートフロアの施工は1列目と2列目の施工精度が特に重要です。詳細は置敷施工の説明をご覧ください。
- (g) フロア1列目が精度よく施工できた状態で、フロア1列目の下端のサネを釘止めすると接着剤が硬化する前にフロアが固定されるため1列目の釘止めをお勧めいたします。
- (h) フロア材を施工場所の環境に慣らす(養生する)。



メ モ

クリック ツー クリック

エクスプレス クリック

Clic2Clic と Express Clic の説明

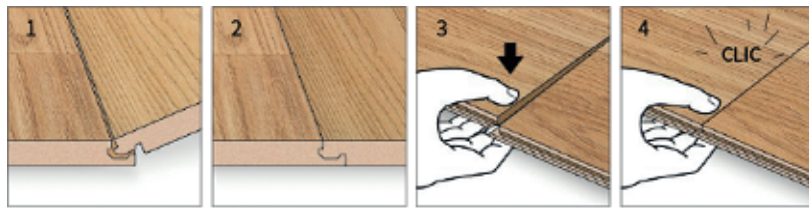
ラミネートフロアの長辺と短辺にはクリック (Clic Click) と呼ばれる特殊形状のサネ加工がされています。

クリックは本実が進化したもので、本実より早くて正確なフロア施工ができます。クリックの形状は進化し続け、クリックの進化はラミネートフロアの施工方法を進化させています。

ラミネートフロアの施工方法は複数あり、サネを接着剤留めする施工、フロア材の長辺と短辺をハンマーで叩き入れる施工、フロア材の短辺だけをハンマーで叩き入れる施工などの組み合わせで5種類から7種類の施工方法があります。

クロノテックス ラミネートフロアの施工は専用工具もハンマーも使用しない最新式クリック施工を採用しています。

フロア材長辺のクリックは Clic2Clic、短辺のクリックには ExpressClic を採用することにより施工時間は従来品の約半分、そして静かなフロア施工が可能です。フロア材を傷つけることなくクリックの解除ができますので、施工時の仮施工やフロア材の再利用など多くのメリットがあります。



クロノテックスジャパン株式会社

〒381-0024 長野県長野市南長池 280-8

TEL 026-267-0311

FAX 026-267-0312

Mail info@kronotex.jp

<http://kronotex.jp>

本紙は予告なしに改訂することがあります。最新の施工マニュアルは弊社サイトでご確認ください。

(本紙記載内容の無断転用を禁止いたします)